

2021年8月4日(水)

## 旧東海道ブラ歩き(7) 辻堂—大磯

前回は暑さを避けるために辻堂から湯本までを後回しにして7月24日に湯本—甘酒茶屋を敢行した事は既に記したとおりである。今回は8月2日及び3日の2度に亘り甘酒茶屋—箱根(一泊)、翌日芦ノ湖—三島までに挑戦しようとして早起きをしたが、いずれも箱根が雨だというのでこれを断念し、それに代えて前回抜かした辻堂—大磯間を歩行した。娘の注意もあって15分に一回ずつ水分を補給しながら歩いたが、お陰で家内と小生共に熱中症にもならず無事帰宅できた。歩行距離は約15km、37000歩の旅であった。

今回の歩行は前日に決めたが、とにかく早く家を出て暑くなる前に歩くと云うことであった。5時45分起床、6時27分の横須賀線で途中戸塚で東海道線に乗り換えて7時半前に辻堂着。辻堂までは6月24日に歩いているのでここから旧東海道ブラ歩きの続きを始めた。辻堂のマクドナルドでコーヒーを一杯飲んで7時45分スタート。歩き始めてすぐ日本橋から55kmの標識を通過(写真1)。今回の行程は基本的には国道1号線に沿って歩く。車の往来が激しく歩道は狭い。家内と二人で並んで歩くが後ろから自転車が来ると追いつけないので、度々自転車に道を譲った。歩き出して暫くすると茅ヶ崎市に入り、8時40分に平塚まで8km、小田原まで30kmとの標識があるところまで進む。今日は35℃を超える猛暑とかで娘から注意のあった熱中症防止のための15分に1回の水分補給を最初のうちはかなり忠実に遵守した。麦茶をそのまま凍らせて持参したのが成功で、常に冷たい麦茶が飲めたお陰で体力を維持。9時10分、茅ヶ崎駅のすぐ手前で茅ヶ崎一里塚に到達。ここは日本橋から14里目(54km)とのこと。もっと手前で日本橋から55kmとの標識があるので計算が合わないが、ご愛嬌。更に15分ほど歩くと円蔵寺があり、案内所には乃木希典像があるというので立ち寄ってみる。石像の横には二百三高地血染めの岩というのが置いてあるが、何分にも100年以上たっているのでも分らない。それにしても何故日露戦争関連の像がここにあるのかは分からなかった。今日はいつもとより随分速く歩き出したのでいくら歩いてもなかなか10時にはならない。途中TOTOの工場の前を通る。この道は小学生から中学生(昭和20年代から30年代)にかけて親父のオートバイ、その後は車に乗ってかなり頻りに箱根に行ったときに良く通った道だ。当時は松林が残っていて、一部は砂利道だったのを思い出した。10時一寸前に南湖の左富士碑につく。ここと吉原の2カ所のみ左に富士山を拝むことが出来る場所として有名。しかし富士山があるべき方向には3階建ての味気ない建物が邪魔をして富士は見えず(写真2の右側の建物)。残念。

10時半、待望の平塚市に入る。あまり暑い場合には今日は平塚までと決めていたが、確かに熱く腕が焼けてくるが、それでも日陰を選んで歩き、さらに風が吹くとからりとして涼

しい。国道1号線の歩道を黙々と歩き愈々相模川だ。馬入橋の中央から見るとすぐ左は太平洋だ（写真3）。大変気持ちが良い。前を見ると箱根の双子山が見える。家内は一瞬だが富士山も見たそうだがこちらは見損なった。実はここには思い出がある。中学生の頃友達とここに釣りに来たことがあり、釣りが趣味の親戚から釣り竿を借りた。しかし一向に釣れず、これではまずいと思って近所の魚屋で3尾ほど種類の違う魚を買い帰路親戚によってこれが釣れたと云ったところ、そのうちの1尾はここでは釣れない魚だと言われて嘘が一遍に露呈した苦い思い出がある。渡り終わると陸軍架橋記念碑があり説明を読むと関東大震災でこの橋が落下したのを陸軍の工兵隊が見事に復旧したそうである。11時15分くらいに平塚の駅のそばまで来たので旧道をそれてランチの場所を探す。駅のすぐ側の洋食屋に入りここで今日は打ち切るかどうか家内と相談。ここまで22000歩。7月の箱根の旧道登山の際には急な登りでしかも足場が極めて悪かったのではほぼ同じ歩数でGive upとなったが今度は平地なのでかなり楽に進む。とはいえ万一熱中症にかかって救急車で運ばれたりしては一生物笑いの種にされる。この場では結論が出ず平塚駅ビルの喫茶店で小休止しながら様子を見る。この珈琲屋は倉式コーヒーと云ってなかなか感じが良い店で休んでいるうちに元気回復、折角だから大磯まで行ってみようということとなった。なお、喫茶店では横に若い女性が二人座っていたが、我々が出るときにそのうちの一人が「老夫婦でああやって喫茶店にはいるはいいな」とか何とか言ったのを家内が耳にしたとかで、いいでしょと言ってやれば良かったのにと家内に云ってお互いに笑った。

大磯まではあと4km、いつも大井町までコーヒーを飲みに行き、これが往復で3kmで1時間の散歩になる。13時過ぎに出発したのでこれから逆算して2時間以内で着くかと思っ

て歩いたが、どう間違えたのか旧東海道ではなく新しく開通した国道（今はこちらがメイン）に出てしまい、案内所にある名所旧跡に一向にたどり着かない。どうもおかしいので店に入って聞いてみると大分北の方に遠回りをしていることが判明。慌てて旧東海道を探して合流する。旧東海道に復帰して最初通過したのが善福寺でここは虎御前に関係があるが、少し疲れてきたので素通り、大磯と云えば虎御前のようなのだが、歌舞伎を見ない自分達にはピンとこない。とはいえその先にあった同女が化粧をしたという虎女化粧井戸には立ち寄って挨拶をしておいた。

14時40分頃に旧道は国道1号線を北寄りに離れていく。暫くして狭いトンネルで東海道線をくぐってその左側に出るが、この道が素晴らしい。丁度カナダの一寸洒落たResort Townのように各家が道から引っ込んでおり、玄関までアプローチがある。花や芝が美しい。しかも車はほとんど通らない（写真4）。間違いなく別荘族の家だと思う。本陣の跡の立て看板がひっそりと立っている。ここを通り越して再度国道1号線に合流し、後は大磯駅まで一直線だ。ところが駅まで後150メートルの標識が出てきたところで井上かまぼこの広告が目に入る。ここも親父と箱根に行ったときには必ず立ち寄ったところで、家内も

お土産に買って帰るといので駅に向けて右折しないで1号線を西に進む。なかなか出てこない（広告の看板には後650mとあった）。しかし怪我の功名で15時過ぎに新島襄終焉の地との掲示に出会った。読んでみるとそこにあった百足屋旅館で療養中の1890年に47才で世を去ったとある。漱石も49才だ。今から見ると皆寿命が短い。またそのすぐ側に有名な大内館という旅館もある。やっていれば泊まったところだが残念ながらコロナで廃業してしまったらしい。大磯には他に島崎藤村、吉田茂、高橋誠一郎など著名人が住んでいたが、今回は旧宅巡りは出来ず残念。

それはさておき疲れた足を引きずって井上かまぼこまで行くと、なんと水曜日定休とある。これで往復1km以上余分に歩き大分疲れて大磯駅にいたる。これまで辻堂、茅ヶ崎と駅周辺にいくらかでもよい店があったのでそのつもりでいたところ駅には何もなく、そもそも駅ビルがない。仕方なくたった1件やっている殺風景な店で甘いものを食べて電車にのった。当然喉が渴いたので店でビールを注文したところ酒類は禁じられていると聞いてがっかりすると共に、これでは店も儲からないだろうと思った。

これで一件落着の筈だったが、戸塚で東海道線から横須賀線に乗り換える際 Banff Springs の有名なゴルフ場で駐在員時代に買った帽子を網棚に忘れた事に気がつき、慌てて戸塚駅の駅員に事情を話したところ川崎駅で駅員に見て貰うということになった。この件についてはJRの対応は満足するものではなかったが、最終的に川崎駅で保管してくれたので、終わり良ければ全て良し。帰りは大森駅で降りて帰る。丁度18時だ。



写真1 日本橋から55kmの標識

写真2 左富士の碑



写真3 馬入橋



写真4 大磯の素晴らしい街並み



写真5 新島襄 終焉の地